

事業報告書

団体名：特定非営利活動法人亀岡 人と自然のネットワーク

| | |
|---|---------------------------------------|
| 1. 事業名 | アユモドキ架け橋プロジェクト2015 |
| 2. 実施内容 | 実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など) |
| <p>1. 岡山市での情報収集と交流</p> <p>○会場：岡山市立高島小学校、岡山市立千種小学校、岡山シティーミュージアム</p> <p>6月12日(金) 岡山市立高島小学校と岡山市立千種小学校への訪問と交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市立高島小学校では、学校関係者とアユモドキの取り組みについて説明を受け、実際人口受精し、個体飼育されている理科室を見学しました。(学校関係者2名、教育委員会2名、NPO4名) ・岡山市立千種小学校では、当日、新年度のアユモドキの小学校への贈呈式があり、同席し、各学校関係者から状況を聴取しました。また、実際飼育を行っている教諭及び生徒と交流し、実施の小学校での環境づくりや昨年度の生育状況の報告を受けました。また、亀岡での状況と取り組みを紹介し子どもたちは大変喜んで、たくさん質問が出ました。 ・岡山の状況を亀岡で知らせるため子どもたちの状況を動画撮影しました。(学校関係者5名、教育委員会2名、子どもたち30名) ・岡山市教育委員会関係者と交流し、岡山市におけるESDの取り組み状況とそれに関連して今各学校で実施されている「ユネスコスクール」について説明を受け、8月8日に亀岡市で開催する講演会に千種小学校の桴元(とちもと)校長が出席されることを後日確認しました。(教育委員会3名、NPO4名) ・岡山シティーミュージアムは、アユモドキなどのペーパークラフトを見学しました。(学芸員1名、NPO4名) <p>2. 亀岡市での講演会</p> <p>8月8日(土)</p> <p>○会場：亀岡市文化資料館(関係者55名うち子ども29名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料館の事業である「のどかめ親子でアユモドキ見守り隊」(第4回)の活動に参加しました。 ・講演会を開催しました。(見守り隊の参加者も参加しました。) ① NPO会員の仲田氏による亀岡アユモドキの状況と歴史的な背景を説明し、6月12日の岡山訪問の状況報告をしました。 ② 岡山市立千種小学校の桴元校長に岡山でのアユモドキのお話して頂きました。(講演会終了後、千種小学校の桴元校長と今後啓発飼育を実施予定の亀岡市立城西小学校の田端校長との有意義な交流が見られました。) ・講演会の様子についてもビデオ撮影を行いました。 | |

3. 環境フェスタでの展示啓発活動

10月3日(土)

○会場：ガレリアかめおか(1000名)

- ・天然記念物アユモドキのコーナーをつくり、岡山・亀岡での活動を展示パネルにして啓発しました。
- ・岡山市立高島小学校の子どもの「アユモドキ劇」を中心に6月の学校訪問などを映像で流し啓発しました。

3. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

「地元の魚アユモドキ」を身近に感じてもらえるようなムーブメントを創出するために、6月にアユモドキの飼育では先輩である岡山の小学校を中心とする関係者と接触し、交流、見学しました。

そして、岡山の小学校では、実際に校内で人工授精をさせ、地元の岡山淡水魚研究会の手厚いサポートで、命の尊さを学んでいました。また、天然記念物の保全活動として、単なる水辺学習だけでなく、人工繁殖の土づくり、仔魚の観察、餌やりをこなし、アユモドキ啓発劇、幼稚園・保育園に出向いての啓発活動など多彩なプログラムがありました。

また、私たちのNPOは、8月8日に岡山での報告会という形をとって、亀岡市文化資料館で29名の子どもたちに伝え、同時に岡山からも岡山市立千種小学校の校長をお呼びして、特に今後啓発飼育をする予定の亀岡市立城西小学校の田端校長と懇談して頂き、新たな岡山と亀岡の交流の基礎を作ることが出来ました。

今後、望まれる学校間の交流においても、6月12日の岡山の小学校の子どもたちは、是非亀岡に行ってみたいと思いを持っている様子で、今後亀岡の小学校の啓発飼育を通じた交流も現実のものとなる可能性が高いと思います。

最後にこの岡山と亀岡の子どもたちの交流を軸に、それを見守り進めていく学校連携や行政間交流を通じて、亀岡市民に天然記念物アユモドキを再認識してもらおう一助になることを願っています。

4. 協働の効果

※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。

事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

| | |
|----------|--|
| 5. 今後の展開 | 事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。 |
|----------|--|

今回の事業展開については、岡山でのアユモドキのついでの情報収集を中心として、小学校での人工繁殖の取り組み、ESDによるユネスコスクールの展開、学校関係者、行政の取り組みを見て、その後、亀岡市内での報告会（文化資料館での講演会・岡山市立千種小学校の学校関係者の招致）や亀岡市環境フェスタでの事業啓発を行ってきました。

今後は、まず、次年度については、亀岡市内2小学校（城西・保津）の啓発飼育の状況を見ながら、夏休みをターゲットに実際の岡山の小学校の子どもとの交流を検討したいです。

その後、出来れば2年後には、岡山と亀岡の小学校間での交流を実現させたいです。子ども同士の交流が出来、新しいアユモドキの取り組みを歓迎する形で事業展開が出来れば素晴らしいと思います。

NPOとしては、今回の活動が、日本に、世界に、2か所しかいない「アユモドキ」を子どもレベルから保全啓発できる「さきがけ」となることを望みます。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

生息地・亀岡と岡山子らに活動伝え

アユモドキ交流広げ

国の天然記念物アユモドキが生息する亀岡市と岡山市の保全活動関係者が、両市の子どもたちを巻き込んだ交流事業に乗り出した。両市の関係者が相手の市の子どもたちに魚の特徴や保全の取り組みを伝え、将来は子どもたちの相互訪問を目指す。亀岡の関係者は「交流を通じて、子どもたちにアユモドキへの関心を深めてもらいたい」と意気込んでいる。

NPO 来月8日に環境教室



アユモドキのほりりとアユモドキに記念撮影する岡山東区の千種小児童と、岡山人と自然ネットワークのメンバーら。同ネットワーク

「関心深める契機に」

NPO「亀岡 人と自然のネットワーク」が、「アユモドキ架け橋プロジェクト」と名付けて取り組んでいる。

アユモドキは国内では亀岡市と、岡山市の旭川水系と吉井川水系にしかない。岡山では、保護団体が休耕田を借り上げて成育環境を守り、地元小学校でも人工繁殖に取り組みなど、先進的な保全活動を進めている。

6月に亀岡のNPOメンバーら4人が岡山の2小学校を訪問。人工繁殖の方法などを見学したほか、亀岡側からは魚の保全状況や江戸時代の文献などでくるとアユモドキなど文化史的な内容を児童に説明した。

8月8日には岡山の小学校長を亀岡に招き、市文化資料館で飼育について語ってもらった。夏休みアユモドキ環境教室を開く。10月の環境フェスタでも岡山で撮影した映像を流し、現地の保

介する。
ネットワーカーの増田浩嗣代表理事は「岡山の話聞くことで、亀岡の子どもたちにもアユモドキ保全を考えてほしい」と話している。無料。申し込みは31日までに市文化資料館の電話(0771)2200599。(久保田昌洋)